

GAME INFORMATION

10/5 ± 14:00~
パロマ瑞穂スタジアム
vs.大分トリニータ

10/19 ± 14:00~
パロマ瑞穂スタジアム
vs.ベガルタ仙台

[巻頭特集] 故郷の期待と声援を力に変えて
瀬戸市出身のJリーガー 名古屋グランパス

成瀬 竣平

Shumpei NARUSE

地元で生まれ育ったサッカー少年が、名古屋グランパスで活躍している。2019シーズンからトップチームに昇格した成瀬竣平選手は18歳。ピッチの端から端まで走る持ち前の持久力を生かして試合を展開させ、故郷の期待に応えようと奮闘している。

競技を楽しむ気持ちは原点
誰にも負けない勝利への思い

「1試合でも多く出場したい。そのためにも、もっと力を磨かないと。チームの勝利に貢献してみせると、強く思っています」と闘志を燃やす成瀬竣平選手。18歳らしい屈託のない笑顔から一転、プロとして強気な表情を見せた。

成瀬選手は瀬戸市出身。幼い頃からスポーツが好きで、1歳上の兄と共に3歳からラグビーで体を鍛えていた。しかし小学4年生の時、兄の友人がサッカーをする姿を目にして競技を転向。サッカー部と瀬戸FCジュニアに所属して、急速に実力を伸ばしていった。「寝ても覚めてもサッカーのことばかり。家でも外でも、暇さえあればボールを蹴っていました」と振り返る。小学校から帰宅すると、みずの坂中央公園に向かい、一人で練習するのが当時の日課。



今年8月30日、パロマ瑞穂スタジアムで開催されたFC東京戦に出場。会場にはサポーターの歓声が響き、熱戦を繰り広げた

「誰にも負けたくない」という強い気持ちで日々の練習に向かわせた。瀬戸市立木野中学校に進学すると、名古屋グランパスU-15に加入。学校が終われば練習に向かい、休日を含めて週5日取り組んだ。その頃にはチームが認める中心メンバーとなり、ほとんどの試合に出場。中学3年生には、U-15日本代表と日本・中央アジアU-15交流大会の代表選手として選出され、次第にプロを意識していったという。「小学生の頃は純粋にサッカーが楽しくて熱中していました。Jリーガーを意識するようになったのは、中学生からだったんです」とほほ笑む。

喜びも悔しさも経て成長
心身共に飛躍した高校時代

瀬戸西高等学校に入学後は名古屋グランパスU-18に所属し、活躍の場をさらに広げる。午前中は学校に通い、午後から練習に向かうなど、一層サッカーに没頭した。

高校2年生の時、「高円宮杯U-18サッカーリーグ2017プレミアリーグ参入戦」に出場。その大会を最後に監督の退任が決まり、絶対に負けられない大会となった。「監督を胴上げしたい」というチームの思いが勝利に導き、ブロック優勝を達成。1部リーグに昇格した。「最後の試合に勝った瞬間、仲間と泣き崩れました。それまでの努力が報われた気がした、忘れられない試合です」と目を細める。

一方、悔しさに涙をのんだ場面もある。高校2年生の時、U-16日本代

表としてフランス遠征に挑んだが、いざという時に調子が出ず満足に出場できなかった。それまでほとんどの試合に出ていたため、自身の実力不足を痛感したという。「人より早く練習に来て、人より遅くまで練習する。監督が常に言っていた『日常を変える』という言葉の意味が分かりました」と悔しさを滲ませる。体づくりに、練習後のケア、食生活など、アスリートとしての心がけの大切さを実感。精神的に大きく成長する機会となった。

成瀬選手のトップチーム昇格が発表されたのは、昨年8月。周囲は喜びと祝福の言葉にあふれたが、本人は気持ちが引き締まる思いだったと振り返る。「ここがスタート。宮原和也選手をはじめ、昔から知っている選手もいて、一緒に練習するのかもしれないと緊張しました」と目を輝かせる。

苦難のリハビリを越えて
多くの人に夢と感動を届ける

成瀬選手は中学時代からケガに悩まされてきた。中学3年生は腰椎分離症になり、日本・中央アジアU-15交流大会を欠場。高校3年生には肩を脱臼してU-17日本代表を途中離脱した。また、今年3月はじめには再び肩を脱臼して手術に臨んだ。「手術後、足は動くのに練習ができない。他の選手から遅れをとる焦りや不安で精神的に辛かったです」と言葉を詰まらせる。それでも自分に負けず、約5カ月のリハビリを乗り越え8月に復帰。現在はチームの練習に合流し、試合にも出場する。



「練習した分だけ上手くなる」と、サッカーについて話す成瀬選手。サッカー選手も子どもたちへ地元の子供たちに練習してほしい。でも楽しい気持ちは何より大切。メッセージを送る

成瀬選手の強みは、相手に走り負けない持久力。試合でもミスを怖がらず、積極的なプレーを心がけている。「ミスをして落ち込まず、経験を吸収して成長したい。しっかりと自信をつけたいです」と言葉に力を込める。試合で目の前の相手に負けないことを目標にしているという。

ファンとの交流も大切に。名古屋グランパスU-15からサポーターに支えられ、声援を力にできた。「サポーターの皆さんの声援は熱いんです。僕はグランパスで育ててもらったので、試合で恩返しをしたい。それに1試合でも多く出場すれば、サッカー選手を目指す地元の子供たちにも『夢は叶う』って伝えられると思うんです」と笑顔を見せた。

物心つく頃から始める選手も多し中、成瀬選手は小学4年生でサッカーに出合った。どんな時も競技を楽しむ気持ちを忘れずにいるからこそ、目覚ましい成長を遂げたのだろう。

1試合でも多く出場すれば、サッカー選手を目指す
地元の子供もたちに「夢は叶う」って伝えられると思うんです

Profile

名古屋グランパス
成瀬 竣平 [なるせしゅんぺい]
DF / 背番号33

瀬戸市出身、2001年1月17日生まれ。ニックネームはナル。U-15・U-16・U-17日本代表。瀬戸FCジュニア、名古屋グランパスU-15、名古屋グランパスU-18を経て、昨年8月にトップチーム昇格が発表された。サッカーの魅力は「仲間とパスをして得点を入れる時にチームの絆を感じられる」と話し、「故郷の期待に応えたい」と続けて目を輝かせる